

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 泰明小学校

1 課題

【4月】令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題 【10月】令和7年度学習力サポートテスト、体力テストの結果等によって明らかになった課題	
児童・生徒の学力の課題	
国 語	【4月】令和6年度「学習力サポートテスト」の結果は、3学年とも全国や区の平均正答率を上回っている項目が多い。ただし5年生の書く力には個人差が見られる。高学年では、文章構成は理解しているが、誤字脱字や作文用紙の使い方を間違っている児童がいる。また、一文を長く書いてしまう児童が多い。話すこと・聞くことの活動で、自分の考えを相手に伝える場面において、自分本位の話し方、伝え方が見られる。 【10月】令和7年度「学習力サポートテスト」の結果から、全学年とも全国平均を大きく上回っているが、学年ごとに課題が見られる。4年生では「読むこと」が区平均「記述」で区平均を10.5ポイント上回るなど、強みが確認できる。一方で6年生は「書くこと」が区平均を0.7ポイント上回るとどまり、また、「記述」も区との差がほぼ0.0ポイントであり、学年が上がるにつれて表現力の優位性が縮小している。以上から、高学年では、「根拠をいのかした記述力・書く力」を重点的に強化し、4年生では読解力の補強を図る必要がある。
算数・数学	【4月】令和6年度「学習力サポートテスト」の結果は、3学年とも平均正答率を上回っている。5年生は、「基礎」、「知識・技能」の領域においては更に向上させたい。5年生、6年生では「データ活用」の領域の記述問題に課題が見られた。自力解決の能力は長けているものの、比較検討をした際の理解に不十分な点がある。 【10月】令和7年度「学習力サポートテスト」の結果は、3学年全てにおいて目標正答率を上回り、全国の平均正答率も上回っている。4年生は、目標値と全国平均正答率を上回っているものの、区の平均正答率は下回っており、特に「思考・判断・表現」の観点においては区平均を6.5ポイント下回っている。5年生・6年生は、区の平均を「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに上回っていた。問題の内容別にみると、4年生では「図形」の領域に課題が見られた。5年生は、どの領域も区平均と全国平均を上回っていた。6年生は、全ての領域で全国平均を上回っていたものの、「数と計算」「データの活用」の領域において区平均を下回っていた。
社 会	【4月】令和6年度「学習力サポートテスト」の結果は、4年生、5年生の思考・判断・表現の平均正答率が区平均を下回る内容があった。4年生の「生産や販売」、「市の様子に移り変わり」、5年生の「都道府県の様子」「特色ある地域の様子」、「自然災害からくらしを守る活動」、「伝統や文化、先人の働き」に課題がある。資料の読み取りはできるが、比較することについてはまだ不十分である。 【10月】令和7年度「学習力サポートテスト」の結果から、全学年とも全国平均を大きく上回っているが、学年ごとの課題が明らかになった。4年生では「市の様子と移り変わり」が区平均を4.6ポイント、5年生では「伝統や文化、先人の働き」が区平均を17.3ポイント、6年生では「農業や水産業」が区平均を1.8ポイント下回る結果であった。地域社会の変容や伝統文化を自分事として捉え、調べたことについて根拠を明確にして表現できる力を養う必要がある。
理 科	【4月】令和6年度「学習力サポートテスト」の結果は、3学年とも目標値を上回っている。ただし「生命・地球」では、5年において微増としている。正答率分布では区の分布と比べ、70%の児童が多くなっている。 【10月】令和7年度「学習力サポートテスト」の結果は、全学年とも全国平均を大きく上回っている。しかし、4年生では、基礎の問題では区の平均を1.5ポイント上回ったものの、活用の問題では区平均を3ポイント下回る結果となった。また、6年生においても、基礎の問題では区平均を6.5ポイントと大きく上回っていたが、活用の問題では0.6上回るに留まっている。知識や技能だけでなく、それを生かして、実験結果からどのような問題を見いだしたのかを推測したり、仮説を立て問題を解決する実験の方法を構想したりする力を養っていく必要がある。
英 語	【4月】令和6年度「学習力サポートテスト」の結果では、全国の平均正答率と比べて全ての項目で上回っている。しかし、区の平均正答率と比較すると、「聞くこと」「読むこと」は下回っており、特に「読むこと」に関しては約4ポイント区の平均正答率を下回る結果となっている。 【10月】令和7年度「学習力サポートテスト」の結果では、全国の平均正答率、区の平均正答率と比べて「聞くこと」「読むこと」「読むこと」全ての項目で上回っている。

体力向上	【４月】体力テストの結果から、各学年で種目ごとに課題が見られる。学年別、種目別で下回っているものは、１年生の「５０ｍ走」「立ち幅跳び」「ボール投げ」「長座体前屈」、高学年では全体的に「上体起こし」「ソフトボール投げ」「５０ｍ走」に低い傾向が見られた。 【１０月】令和７年度「体力テスト」の結果から、３・４年生女子のソフトボール投げ、６年生男女の上体起こしが全国平均よりも下回っている。特に、１年生男女のソフトボール投げは約８ポイント下回っている。１年生は他にも、長座体前屈が約３ポイント下回っていることから、１年生の２つの項目に課題が見られる。
------	--

２ 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

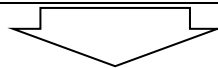
	年度末までの目標及び指標	具体的な取組
国 語	【４月】令和７年度「学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、参加校の平均点を上回るようにする。 【１０月】令和７年度「学習力サポートテスト」集計では、区平均点を上回る結果となっている。言葉の特徴や使い方に関する事項との強化を図るために、日常的な音読や精読指導を位置付け、根拠を明らかにして答える習慣を徹底させていく。考えをまとめるシートや思考ツールを適宜活用しながら、語彙を豊かにし書くことの楽しさ、伝える喜びを味わわせながら、国語科での表現活動を充実させていく。	「学力サポートテスト」実施学年だけでなく、低学年からの指導で文章を書くときの決まりを習熟させる。各単元の学習の中で文章を読み取る力を身に付けさせることで、書く力、推敲する力を身に付けさせていく。文章を書くことが苦手な児童には、タブレットを活用することで負担を減らしたり訂正しやすくしたりする。話す・聞く活動では考えを整理して、話題に沿った建設的な話し合いができるよう、適宜、思考ツールやタブレットを活用する。
算数・数学	【４月】令和７年度「学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、参加校の平均点を上回るようにする。 【１０月】令和７年度「学習力サポートテスト」の結果では、全ての実施学年で全国平均を上回る結果であった。引き続き、習熟度別学習を充実させ、個にあった学習を進める。根拠をもって自分の考えをもち、伝え合うことで考えを再構築することができるような学習活動を多く取り入れていく。既習の計算や文章問題を確実に理解させ、文章や図を用いて説明する時間を意図的に取り入れていく。	自力解決の時間は設けているものの比較検討の時間を設定できないこともあるので比較検討の場面を増やす。また、タブレットを比較・検討に活用したり、既習事項や前時までの学習を活用したり効果的に活用していく。教員が算数におけるタブレット活用のミニ研修会を実施し、授業での活用方法を共有する。
社 会	【４月】令和７年度「学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、参加校の平均点を上回る、もしくは同率になるようにする。 【１０月】令和７年度「学習力サポートテスト」カテゴリ別の平均では、「市の様子や移り変わり」、「伝統や文化、先人の働き」「農業や水産業」「記述」と区平均を下回った。資料の読み取り方を定着させ、その上で地域調査などの体験的な学び方を基に、事実を具体的に理解できる方法を意図的に取り入れていく。また、歴史や産業を自分事として捉えることができるよう、体験的、活動的な学習形態を適宜取り入れていく。	体験的な学習を通して身の周りの社会事情を自分の生活と関連させて考える時間を設ける。資料を比較する活動を増やし、資料を見る視点を提示する支援を行っていく。プレゼンテーションソフトを作って、相手意識をもって自分の考えを表現する活動を通して、主体的な学習を進めていく。
理 科	【４月】「令和７年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、参加校の平均点を上回ることに、正答率７０％の児童の正答率を高める。 【１０月】生活の経験の中ですでに知っている実験結果に捕らわれず、実際に行い知り得た実験結果から何が分かったのかを掘り下げる学習を展開する。論理的かつ科学的な考察を児童一人一人が行えるようにする。また、児童に実験方法を考えさせたり、試行錯誤させたりして、科学的な視点をもたせる。	生活の中で体験したことや学習の中で実験したことを基盤とし、更に比較検討したこと等を記述してまとめたり、違う視点で既習事項を活用したりする時間を設ける。また、端末のドリルアプリやプリントでの学習で、習熟を図る。学習の中で、論理的かつ科学的な考察を行う時間を十分に確保する。

英 語	【４月】令和７年度「学習力サポートテスト」で、区平均点を上回る、もしくは同率になるようにする。 【１０月】令和７年度「学習力サポートテスト」で、全ての項目で区平均点を上回る結果となっている。継続していくために、苦手意識をもっている児童に対して、授業内での歌やチャンツ、ゲームの外国語を活用することを続けていく。	英語に対して苦手意識をもっている児童もいるので、歌やゲームなどの活動を取り入れるとともに、何度も繰り返して学習する時間を設ける。また、日常生活の中で外国語を活用する機会が増えるよう計画をする。 例）街頭インタビュー等
体力向上	【４月】令和７年度「体力テスト」で、どの項目も全国平均と同率になるようにする。 【１０月】１年生の体育「多様な動きをつくる運動遊び」の時間での運動遊びの「投げる」の時間を大幅に確保する。また、定期的に外部と連携を図って実施している「投げ方教室」を１年生に重点を置いて実施していく。また、準備運動の際に毎回ストレッチを用いた運動遊びを取り入れ、日常的に柔軟性を高めていく。来年度の体力テスト実施までに運動の習慣化を行う。	朝の時間に運動を行う「泰明タイム」で、基本的な運動習慣をつけるとともに、体育の学習でも、起き上がりの動き（上体起こし）を意図的に取り入れていく。更に、日常的に児童に体力の高まりを実感できる機会を設けていく。マイスクールスポーツの持久走を継続し、児童が意欲的に運動に取り組めるようにする。

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
取組	・学習の計画を立てる時点で、一人一人が個人の課題や目標を設定し、自分に合った方法で学習に取り組める機会を設ける。 ・学習したことを、学習用タブレットを活用して表現したり、話し合いを充実させて新しい考えを生み出したりする活動を推進していく。 ・今年度の校内研究の内容とし、授業改善を図る。

探究的な学びの充実	
取組	・各教科の単元に応じた学びを広げ、自分で問題を設定し、その問題を解決するために学習用タブレットを活用して情報を収集して学習を進める機会を設ける。 ・３年生以上は家庭学習を自主学習とし、調べ学習に主体的に取り組ませる。

読解力の育成	
取組	・読解力の基盤である語彙を読書活動で増やす。 ・国語の学習で、文章の構造や内容の把握のポイント、文章の読み方の学習を充実させるとともに、文章の内容について、自分の考えを書いたり、発言したりする活動も充実させる。



３ 取組結果の検証

	令和７年度の取組の成果	令和７年度の取組の課題と解決策
国 語		
算数・数学		

社 会		
理 科		
英 語		
体力向上		

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
成果と課題	

探究的な学びの充実	
成果と課題	

読解力の育成	
成果と課題	